東京外国語大学
留学生日本語教育センター論集　37：47～61，2011

文章表現指導の観点から『中級日本語』の文型を考える

伊集院　郁子

【キーワード】『中級日本語』、文型、モダリティ、使用実態、文章表現指導

1　はじめに

東京外国語大学留学生日本語教育センター（以下、本センター）の国費学部進学留学生に対する大学入学前予備教育（以下、1年コース[1]）では、160コマ（1コマ＝90分）ほどで『初級日本語』の学習を終了し、引き続き『中級日本語』を主教材とした中級の授業に入る。4月の時点で、日本語を学習していない状態で入学してきた学生にとって、『初級日本語』と『中級日本語』で導入される文型項目は、彼らの日本語のまさに骨格をなすものとなる。中級の最終段階で学生が執筆する意見文[2]を見ると、これまで学習した文型項目を実に豊富に用いて文章を構成していることに感嘆する一方で、強引に既習文型を多用しているために文脈や運用のし方が適切でないと感じることも多々ある。文型を導入する際、話し言葉的な文型は作文で用いないよう指導するが、書き言葉であっても意見文には適さない表現や利用に注意を要する表現については、教師自身も見過ごしてしまっているために十分な指導がなされていない面もあるのではないかと反省させられる。

本研究では、このような反省から、意見文における『中級日本語』の文型の使用実態を分析し、文章表現につながる文型指導の可能性を探る。

2　分析の対象

2-1　分析項目

『中級日本語　語彙・文型例文集』（以下、テキスト）の第二部「文型例文集」に挙げられている文型・語句のうち、文末で用いられ得るモダリティ表現の出現頻度と

1　本センターが行っている教育プログラムの一つで、1年間で初級から上級までを段階的に指導している。

2　中級後半の文章表現指導の目標は「抽象的な事柄を含む内容についてまとまりのある文章が書ける」ことであり、その評価は「意見文」の執筆によって行われる。ここでいう「意見文」とは「根拠を挙げながら、あるテーマに関する自分自身の見解を論理的に述べた文章」を指し、上級で小レポートを執筆する前段階として指導するものである。

出現の様相を分析する。効果的な意見文を執筆するには、書き手の主観的コメントをいかに提示し、読み手を納得させるかが重要となる。「モダリティは、その文の内容に対する話し手の判断、発話状況やほかの文との関係、聞き手に対する伝え方といった文の述べ方を担う（日本語記述文法研究会編 2003：1）」ため、意見文の執筆には欠かせないものであると考える。日本語記述文法研究会編（2003）を参考に広くモダリティ表現を取り出し、表1に示す40項目を分析対象とした。

表1　分析対象とした『中級日本語』の文型・語句

課	『中級日本語』文型・語句	『中級日本語』提示例文
6	～ということだ／～とのことだ	ニュースによると、今年の冬はあまり寒くならないということだ。
8	～のではないか	この答えは間違っているのではないか。
	（思わ）れる	マナさんの意見の方が正しいと思われる。
	～わけではない	あの人だけが悪いわけではない。皆、責任がある。
	Vたいものだ	戦争のない平和な世界を作りたいものだ。
9	～わけにはいかない	今日は頭が痛いから、休みたい。しかし、試験があるので、休むわけにはいかない。
	～（という）わけである	留学が終わり、国へ帰ったら、日本でのことをいろいろ家族や友だちに話すつもりだ。その時に写真があった方がいい。だから、いつもたくさん写真をとっているというわけだ。
	～恐れがある	台風がこの地方に来る恐れがある。
11	～にちがいない	冷蔵庫に入れておいたケーキがない。妹が食べたにちがいない。
12	Vまい	西の空が赤いから、明日は雨は降るまい。
	Vてほしい	早く冬休みになってほしい。
	～そうもない	今日は雨が降りそうもない。
	～ものだ／ものではない	子供は早く寝るものだ。いつまでも大人といっしょに起きているものではない。
13	～しろ／せよ	私の犬は「座れ、行け、とべ」の命令がわかる。
	（しゃべる）な	「騒ぐな、静かにしろ」と父にしかられた。
	～と考えられている	ガラスは約五千年前に作り出されたと考えられている。
	～と言えよう	日本では、「おじぎ」が普通のあいさつだと言えよう。
14	Vべきだ／べきではない	警察は市民の安全を守るべきだ。
	Vばよい／たらよい	人の意見と違っても、自分が正しいと思ったことは、正しいと言えばよい。
15	（必ずしも）～とは限らない	お酒を飲むことが必ずしも悪いとは限らない。
	Vざるをえない	奨学金がもらえなくなったら、帰国せざるをえない。
	Vぬ	しなければならぬことは、全部した。
	Vねばならない	言わねばならぬ時は、はっきり言った方がよい。
16	（できよう）はずがない	料理の先生がいい材料を使って作ったものがまずかろうはずがない。
	Vずにはいられない	医者にとめられているが、お酒があったら飲まずにはいられない。
	～というものは～ものだ	人間というものはいつか死ぬものである。
17	～ように思える	けんかの原因は田中さんにあるように思える。
	Vてはならない	戦争によってたくさんの人々が亡くなったことを忘れてはならない。
18	・・・か。それとも、・・・か	生きるべきか。それとも、死ぬべきか。それが問題だ。
	～と言えるかどうか	原子力発電所は安全だと電力会社は言っているが、事故が起こっているというニュースを聞くと、安全だと言えるかどうか。
	Vかねない	人間は、困ったら、どんなひどいこともやりかねない。
	Vまい	絶対にお酒を飲むまいと思っても、さびしくなると飲んでしまう。
19	～と見てよい	夕方、西の空が赤く染まっていれば、次の日は晴れると見てよい。
	Vほかない	タクシーがないので、歩いていくほかない。
	～と見られる	今後も日本に留学する学生の数は増えると見られる。
	～ことはない	電気が消えたぐらいでそんなにびっくりすることはない。
20	～てならない	試験のことが心配でならない。
21	言うまでもない	ダイヤは、質がよければ、値段が高いのは言うまでもない。
	（何とか）～ないものか	何とか、楽に漢字が覚えられないものか。
	～か否か	宇宙人が存在するか否かは明らかではない。

表1に挙げた40項目の出現形式について、次のように「文末」と「その他」にわけ、出現頻度を求めた[3]。

＜「文末」の例＞

- JP079-11[4]　もちろん、紙媒体に利点が無いわけではない。
- JP104-11　更に、インターネットを利用できる人ばかりがこの世にいるわけではない。

＜「その他」の例＞

- JP064-01　インターネットでニュースが見られるからといって、新聞や雑誌の必要性が薄れたわけではないと私は思う。
- JP083-05　さて、少なくとも日本国内においては二十一世紀初頭の現代において取り立てて緊張した政治情勢にあるわけでなく、史上稀に見るような平和な世界を享受することができている。
- JP085-08　全ての人がインターネットを使えるわけではないという理由もあるが、何よりも新聞や雑誌は有形という性質を持つからである。

「文末」は、文の末尾にそのまま裸の形式で用いられているものである。「その他」には、思考動詞やその他のモダリティ表現が連節した複合形式で出現したもの（JP064-01）や、従属節末に出現したもの（JP083-05）、連体修飾節内に出現したもの（JP085-08）などがある。

なお、日本語学習者（以下、NNS）に軽微な誤用が見られた場合、正用の形式が容易に判断可能な場合にのみ分析対象とした。例えば、次の下線部は「～にちがいない」として分析した。

- NNS036-19　だから私達の日常の生活にインタネットは欠かせないものになってこれからも人間とインタネットの結びはどんどん強くなるにちがえないだろう。

2-2　分析データ

分析データとする日本語母語話者（以下、JP）の意見文の概要は、次の通りである。

---

[3] 「～というものは～ものだ」（16課）と「…か。それとも、…か」（18課）の2つの文型は、文型自体が文中と文末にかかるため、「文末」「その他」という分類は設けなかった。

[4] 作文データに付されている番号である。JPは日本語母語話者、NNSは日本語学習者を表す。JPまたはNNSに続く数字は、【作文執筆者のID番号 - 作文内の文番号】を表す。また、例文は誤用の訂正を一切行っていない。

【JP データ：134 編】
・収集時期： 2007 年 6 月から 12 月
・執筆者　： 東京都内の大学に通う 18 歳から 24 歳までの日本人学生 134 人
（平均年齢は 19.4 歳）
・課題　　： インターネットニュースと新聞・雑誌の是非に関して論じる[5]
・収集形態： 辞書等は使用せず、大学の教室にて 60 分以内に執筆して提出

対照分析のための参考データとして、2007 年度に本センターの 1 年コースで学んでいた NNS が、同テーマで執筆した意見文も用いた。

【NNS データ：45 編】
・収集時期： 2007 年 11 月
・執筆者　： ベトナム、モンゴル、インドネシア、マレーシア、タイ、ブルガリア、ルーマニア、イラン、アゼルバイジャン、ウズベキスタン、ロシアほか、計 22 カ国からの留学生。学習段階は中級後半
・課題　　： インターネットと新聞・雑誌に関する主張に反対意見を述べる[6]
・収集形態： 辞書使用可、宿題として持ち帰って後日提出。執筆時間の制限なし

NNS のデータは少量であり、あくまでも参考データに過ぎないが、本センターで学ぶ学生に共通する特徴が見出されれば、指導の改善に有効な情報となると考える。以下に両データの概要を示す。

表２　作文データの概要

日本語作文執筆者	作文数	ﾀｲﾄﾙ文数	本文数（平均）	段落数（平均）
日本語母語話者(JP)	134	133	2176（16.2）	553（4.1）
日本語学習者　(NNS)	45	40	782（17.4）	229（5.1）

３　分析の結果

各分析項目の出現総数を表 3 に示す。表 3 の結果と出現例を分析した結果、①意見文で積極的に「利用可能な文型」、②意見文での「利用に注意を要する文型」、③ JP による出現が顕著であるものの、文型の機能が異なる「同形式・別機能の文型」が浮かび上がってきた。次章では、これらの 3 つの観点から特筆するべき項目を取り上げて、考察を加える。

---

[5] JP に与えられた課題文は資料 1 に示した。
[6] NNS に与えられた課題文は資料 2 に示した。

表３　各項目の出現頻度

課	『中級日本語』提示文型	JP			NNS			分析に関する補足事項
		文末	その他	合計	文末	その他	合計	
6	～ということだ／～とのことだ	0	0	**0**	2	0	**2**	「伝聞」の機能をもつ場合のみ対象
8	～のではないか	12	49	**61**	8	7	**15**	「～のではないだろうか」は「その他」に含める
	（思わ）れる	33	8	**41**	9	1	**10**	「～と／ように（思わ・考えら・感じら）れる」*を含む
	～わけではない	11	11	**22**	9	2	**11**	
	Vたいものだ	0	0	**0**	0	0	**0**	
9	～わけにはいかない	0	2	**2**	0	0	**0**	
	～（という）わけである	2	7	**9**	2	0	**2**	「（という）」は必須要素としない
	～恐れがある	7	2	**9**	1	0	**1**	
11	～にちがいない	0	0	**0**	5	3	**8**	
12	Vまい	2	0	**2**	2	1	**3**	「否定推量」の機能をもつ場合のみ対象
	Vてほしい	3	1	**4**	0	0	**0**	
	～そうもない	0	0	**0**	0	0	**0**	
	～ものだ／ものではない	0	0	**0**	0	0	**0**	「必要」の機能をもつ場合のみ対象
13	～しろ／せよ	1	0	**1**	0	0	**0**	命令形をすべて含む
	（しゃべる）な	0	0	**0**	0	0	**0**	
	～と考えられている	1	9	**10**	3	0	**3**	
	～と言えよう	7	0	**7**	6	1	**7**	
14	Vべきだ／べきではない	7	22	**29**	3	1	**4**	
	Vばよい／たらよい	2	3	**5**	4	0	**4**	「必要」の機能をもつ場合のみ対象
15	（必ずしも）～とは限らない	2	2	**4**	1	0	**1**	「（必ずしも）」は必須要素としない
	Vざるをえない	3	1	**4**	1	2	**3**	
	Vぬ	0	4	**4**	3	3	**6**	
	Vねばならない	1	1	**2**	1	2	**3**	「Vねばならぬ」を含む
16	（できよう）はずがない	0	1	**1**	1	3	**4**	「Vるはずもない」を含む
	Vずにはいられない	0	0	**0**	2	2	**4**	
	～というものは～ものだ	―	―	**3**	―	―	**2**	「本性規定」の機能**をもつ場合のみ対象 「～というのは～ものだ」「～（と）は～ものだ」を含む
17	～ように思える	6	1	**7**	1	1	**2**	
	Vてはならない	4	4	**8**	2	0	**2**	
18	・・・か。それとも、・・・か	―	―	**0**	―	―	**2**	
	～と言えるかどうか	0	0	**0**	5	1	**6**	
	Vかねない	4	2	**6**	1	0	**1**	
	Vまい	0	0	**0**	0	0	**0**	「否定の意志」の機能をもつ場合のみ対象
19	～と見てよい	0	0	**0**	5	0	**5**	
	Vほかない	0	0	**0**	2	1	**3**	
	～と見られる	0	0	**0**	1	0	**1**	
	～ことはない	0	0	**0**	0	0	**0**	「不必要」の機能をもつ場合のみ対象
20	～てならない	0	0	**0**	0	0	**0**	
21	言うまでもない	0	2	**2**	0	1	**1**	
	（何とか）～ないものか	0	0	**0**	0	0	**0**	「（何とか）」は必須要素としない
	～か否か	0	2	**2**	0	0	**0**	

＊一段動詞のル形は「自発」か「可能」か、判断が難しいため、「自発」の可能性があるものは全て含めた。
＊＊ある存在について、それがどのようなものであるかという「本性」を規定する機能（吉川編 2003：12）

4　考察

4-1　利用可能な文型

JPでの使用が20例以上あり、意見文で積極的な利用が可能だと考えられる文型は、①「～のではないか」、②「(思わ)れる」、③「～わけではない」、④「Vべきだ／べきではない」である。以下にその具体的な利用例を提示し、文章表現指導の観点から、文型指導の際に必要だと思われる注意点を挙げる。

①「～のではないか」

JPの使用例をみると、「～のではないか」を用いた文は、自分の主張を表明する重要な一文として機能している。また、形式に着目してみると、JPの使用61例のうち、8割にあたる49例が「文末」での裸の形式ではなく、「～だろうか」や「～と考える」を伴った形式で出現している。

- JP064-13　従って、膨大なニュースを読もうとするなら、インクで印刷された活字が一番適切な方法なのではないだろうか。
  (「～のではないでしょうか」「～のではなかろうか」も合わせ、28例)
- JP109-02　そのため、新聞や雑誌は必要ないと思う人もいますが、私はそのような旧来のメディアも必要なのではないかと考えます。
  (「～のではないかと｛思う／思える｝」も合わせ、16例)

一方、NNSでの利用例をみると、一つの意見文内で多用している執筆者も見られ、計15の出現例は8名の執筆者によるものである。また、文内に誤用を含んでいるために肝心な主張が伝わりづらい(NNS022-09,10,15)、事実として述べることが可能な文にまで用いている(NNS022-13)という問題も見られる。

- NNS022-09　だから、世界には現代的に新しいインターネットが好きな人がいると同時に伝統的に慣れた新聞などが好きな人もいるのは世界のバランスなのではないか。
  NNS022-10　それで、だれか権力を持って全部雑誌などをこの世から消え去らせたら、その人は外の人の権利を侵さずにはいられないのではないか。
  NNS022-11　これは、正しいかどうか探く考ればいい。
  NNS022-12　次に、伝統的な面を考えてみよう。
  NNS022-13　長い間新聞は家庭の友達になったのではないか。
  NNS022-14　これは、毎朝、家族はみな食卓に集まって、お父さんは小さい子供に字の読みかたを一つずつ教えているのである。
  NNS022-15　こんな暖かい光景がいつかなくてしまうのを惜しむのではないか。

これらのことから、文型導入の際に例文を「のではないだろうか」「のではないかと考える」などの複合形式で提示すると同時に、読み手に伝わりやすい表現で端的に主張を表す文を産出する練習を行う必要があると考える。

②「(思わ)れる」

思考・判断を表す動詞が「自発」の「～(ら)れる」の形で現れるのは、論拠を重ね、ある程度客観性を帯びた主張を提示する際であるが(JP102, JP112)、NNSには、冒頭で主張を述べる際に使用する例(NNS039)も見られた。

- JP102-13　以上のように、新聞・雑誌は、インターネットのような早さや扱える情報の多さでは劣るが、記事の信憑性や情報収集の効率から言えば、優っている点がいくつもあり、これからも新聞や雑誌は必要である<u>と思われる</u>。
- JP112-09　このような例からもわかるように、一瞬で紙媒体が消えることはなく、世代の移り変わりによって徐々に斜陽していく<u>と考えられる</u>。
- NNS039-01　私たちが日常生活に、よく使っているものの中にインターネットは非常に大切なものだ<u>と思われる</u>。

テキストには、表1で挙げた例文のほかに、「国の写真を見ると、家族のことが<u>思い出される</u>。」「近所の人たちは親切なので、家族のように<u>感じられる</u>。」という情緒的・主観的な自発の用法が提示されている。植田(1998)は、使われる動詞によって自発文を「感情・心情を表す動詞によるA型文」と「思考・判断を表す動詞によるB型文」に分類しているが、意見文で有効なのは後者である。これらの使用は、論理的な筋道をたどった上で自分の考えを提示する際に適切となるため、文章表現の観点からは、どのような論拠が妥当であるか、どのような手順で論拠を積み上げて主張に持っていくか、論理の筋道を考える作業とともに、「考えられる」「思われる」「判断される」といった思考・判断を表す動詞の「自発」を指導することが望ましいだろう。

③「Vべきだ／べきではない」

「～のではないか」での指摘と同様、JPによる使用例の76％が複合形式(JP070)や連体修飾節(JP039)で用いたものである。テキストの例は文末の裸の形式のみであるため、NNSにはこれらの形式のバリエーションも示す必要がある。

- JP070-01　媒体の一形式としての新聞や雑誌の役割は、消えはしないだろうが、限定的になる<u>べきであると考えている</u>。

・JP039-05　また、インターネットが新聞や雑誌に取ってかわるこの事態は、私たちにとって歓迎すべき動きだとも考える。

特に文末で思考動詞とともに用いる複合形式と、文中の連体修飾節での利用[7]を指導するとよいだろう。

④「～わけではない」

JPによる使用例は、「みんな」「全てのN」「全く」などの語と共起する「部分否定」の用法が22例中14例を占めていた。

・JP054-16　さらに、皆が皆パソコンを使える環境にあるわけではありません。

・JP085-08　全ての人がインターネットを使えるわけではないという理由もあるが、何よりも新聞や雑誌は有形という性質を持つからである。

・JP110-12　古新聞という形で新聞や雑誌は回収されリサイクルされてはいますが、百パーセントリサイクルできるわけではないし、回収されずに捨てられる新聞や雑誌も大量にあるはずです。

・JP125-13　とは言え、新聞や雑誌の記事に全く誤りがないと断言しているわけではない。

そのほかに、「聞き手が推論を働かせて考えるであろう事柄を話し手があらかじめ否定する」(吉川編 2003:137)用法が見られた。JP048の例は今まで述べてきた「紙媒体のメリット」から、読み手が推論するであろう「紙媒体は電子媒体より優れている」という見解を予測して否定したものである。

・JP048-18　しかし電子媒体は紙媒体に屈しなければならないわけではない。

上に示した部分否定の例は、ともに使われている言葉に注目すれば、比較的理解しやすい用法だと考えられる。まずは典型的で理解しやすい部分否定の例から導入し、続いて読み手の推論を否定する用法も導入して理解を深め、最終的には文章表現でも産出できるように練習を加えたい文型項目である。

本節の最後に、以上に挙げた4項目に加え、「～と言えよう」について補足したい。「～と言えよう」そのものの使用はJP、NNSともに7例ずつであったが、「未然形＋{う／よう}」で推量を表す用法は、「～であろう」40例、「～であろうか」9例、「～かろう(か)」7例、「あろう」1例と、JPに多数見られた。

・JP132-15　そしてその役割がインターネットに渡されることはないであろう。

---

[7] テキストの最終課である21課の本文の中で、新しい言葉として「記念すべき」が取り上げられているが、文型として「～べきN」の形は明示されていない。

- JP080-08　その意見はたった一人の評論家の意見であり、それに同調してしまうのはあまりに安易ではなかろうか。
- JP083-26　ユビキタスな情報浴への参加と、伝達の即効性という点で、インターネットはかつてないレベルでの社会変革を生む鍵を握っていることは間違いなかろう。

テキストでは、「と言えよう」は文型ではなく語句として扱われているが、一つの語句として教えるだけでなく、書き言葉で出現しやすいこれらの形式も、その他のバリエーションとして触れておくと良いだろう。

4-2　利用に注意を要する文型

ここでは、JPには使用が見られないもののNNSに4例以上の使用が見られた、①「～にちがいない」、②「～と言えるかどうか」、③「～と見てよい」、④「Vずにはいられない」と、JPとNNSとで出現形式が全く異なっていた⑤「Vぬ」の5つの文型を取り上げる。

①「～にちがいない」

テキストには、「～にちがいない」の説明に「～ことは間違いない、また、～ことが100％予測される」(p.52) と記載されている。意見文で主張をする際に利用しても問題なさそうであるが、実際には「～にちがいない」は直感的な確信を表すため、主観的な思いこみという意味合いが出やすい。庵他 (2000) にも「『にちがいない』は主観的な思い込みというニュアンスを帯びやすいので、客観的な述べ方が必要な場合は『はずだ』の方が適切」(p.127) という指摘があり、根拠を挙げて客観的に論じる文脈では「はずだ」の方が好まれる。「はずだ」の使用例は、JPに16例のところ、NNSには2例のみであった。

- NNS006-13　こうして見ると、情報の世紀に生活している私たちにラジオや新聞やテレビなどよりネットの使用はもっと増えて行くのにちがいないだろう。
- NNS042-19　インターネットはこれからも人間にとって世界を見る窓として私達の生活に深く関わっていくにちがいない。
- JP016-06　しかし、新聞・雑誌の存在意義は情報入手の手段にはとどまらないはずである。
- JP130-18　軽量で高性能な使いやすい端末も現れるだろうし、ワイヤレス回線の発達・普及により電子媒体の利便性は飛躍的に高まるはずだ。

学習者の日本語習得レベルによっては、これらの微妙な差異にも触れ、意見文の最終段階で安易に「～にちがいない」を用いることで読み手に主観的な印象を与え

ないよう、「～はずだ」と対照しながら導入することも効果的であろう。

②「**～と言えるかどうか**」

テキストによると、「～と言えるかどうか」は「～と言えるだろうか（言えないだろう）」と同義とされる。しかし、「言えないだろう」という否定的な見解は、その前提となる議論の流れを整えたり、「果たして」などの言葉を伴って強い疑念を表すなど、高度な日本語力によって初めて含意され得るものである。議論の展開が不十分で含意が伝わらない場合には、書き手が単に中立的立場で問題提起を行ったように解釈されることになる。また、確固たる主張を提示すべき個所で用いられた場合、それが主張表明とは解釈されず、単なる疑念の提示にとどまってしまうこともある。以下に示すNNS003とNNS022の例は、冒頭で主張を表明し、「まず」という言葉で根拠の列挙を開始し、最後にもう一度主張で締めくくる構造をもつ意見文である。

- NNS003-01 私は、新聞や雑誌があるから、インターネットはいらないという意見に反対である。
  NNS003-02 インターネットの出現のころは、新聞や雑誌は多くの人に読まれたから、インターネットは無用のではないかという人がいた。
  NNS003-03 しかし、今でも結構、インターネットは広まってばかりいて、我々の生活に役に立つものである。
  NNS003-04 インターネットは本当に無用と言えるかどうか。
  NNS003-05 まず、インターネットは新聞や雑誌より情報が多い。－以下、略－
- NNS022-01 私はインターネットさえあれば、新聞や雑誌はいらないという意見に反対である。
  NNS022-02 というのは、インターネットの外に、新聞や雑誌の情報も我々の生活に欠かせないものだからだ。－中略－
  NNS022-04 だから、インターネットの生まれと進歩とともに新聞や雑誌の時代は終わるようになるかと考える人もいるぞうである。－中略－
  NNS022-06 しかし、今は新聞や雑誌の最後の時代だといえるかどうか。－中略－
  NNS 022-08 まず、いつの世にも人間はさまざまな興味を持っている。－以下、略－

いずれも根拠に移る前に、「～と言えるかどうか」を用いて問題提起をしているように解釈されるが、冒頭ではっきりと否定した見解が問題提起という形で改めて取り上げられているため、文章の流れが不自然に感じられる。これらの場合は、主張と対立する見解を明確に否定してから根拠に移った方が展開がわかりやすく、読み

手の理解を促すことにもつながるだろう。

③「**～と見てよい**」

テキストでは「～と見てよい：～と考えることができる」(p.127) と説明されているが、「～と見てよい」は専門家が上から判断を下したようなニュアンスを帯びるため、素人的な立場で断定をしたり (NNS011)、だれにでも明らかで単純な根拠を挙げる際に用いると (NNS021)、違和感が生じる。

- NNS011-09　また、インターネットの一番優れた点は、離れた場所にいる人々の間の結びつけることだと見てよい。
- NNS021-06　クリック一つでニュースから占いに至まで、さがせると見てよい。

JP による使用例が意見文から抽出できなかったため、インターネット上で「～と見てよい」を検索したところ、「～とみてよい{のか／だろうか／ですか／でしょうか}」という疑問文の形式で、専門家や広く一般の人から意見を求めるために使われる例が典型であり、個人的見解を述べるような使用例は見当たらなかった。

これらの文型項目については、導入の際に例文の特徴に着目させ、使用する状況だけでなく使用しない方がよい状況についても説明を加えるとよいだろう。

④「**V ずにはいられない**」

テキストの説明の通り、「V ずにはいられない」は「V ないことはできない」と同義であるが、「感情・衝動を抑えることができない」ことが含意されるため、個人的な感想ではなく客観的な主張を展開しようとする文章では出現しにくい。JP の使用は皆無であったが、NNS には以下の使用が見られた。

- NNS015-15　こういう欠点を言わずにはいらない。
- NNS022-10　それで、だれか権力を持って全部雑誌などをこの世から消え去らせたら、その人は外の人の権利を侵さずにはいられないのではないか。
- NNS022-16　またお父さんは作日のニュースを知らせ、皆耳を傾けるのはたいへん家庭の感情を結びつかせずにはいられないのたろうか。
- NNS039-09　もちろんインターネットが使わずにはいられない。

論理的に主張を展開している過程で用いる際には、それぞれ、「(このような欠点も) 指摘しなければならない」「侵してしまうことになる」「結びつかせてくれるのではないだろうか」「使わずに生活することはできない」など、文脈に適した別の表現を工夫する必要が生じる。ほかの項目と同様、文型導入の際には、どのような感情

を表現するのにふさわしいのかを指導すると同時に、アカデミックな文章では用いない方がよい表現についても言及しておく必要がある[8]。

⑤「V ぬ」

JP と NNS とでは「V ぬ」の使い方が顕著に異なっており、JP は「～ぬ N」という連体修飾での使用、NNS は文末や従属節末での使用が目立った。

- JP044-09　これはパソコンのディスプレイとむかい合いながら、カーソルを動かし、眺め、次の情報へとクリックするという行為ではうまく成り立たぬことではないかと思う。
- JP060-07　先程の PC 使用環境遍在化の仮定にしても、この先紙面メディアがコンピュータ（インターネット）にとってかわられるかどうかは予断を許さぬところがある。
- JP084-07　対してインターネットは、基本的に自分の興味がある記事をみる形となり、思わぬ形での知識の広がりは期待しにくい。
- NNS004-09　使われるとき、資料を分別しなければならぬ。
- NNS017-12　したがって、つい大切なお金と時間を使って買ったものをゴミにせねばならぬ。
- NNS017-17　また、もっと詳しく調べたい場合は専門書を買わねばならぬがインターネットなら政治からスポーツまで、経済から流行までの知識を茶の間にもたらしてくる。

「ぬ」は古語の否定の助動詞であるが、現在では、文末や従属節末に裸の形式でそのまま用いられることは稀である。意味さえ理解できれば、NNS にあえて産出を促す必要はないと思われる。

これと同様に、「V ねばならない」についても、JP より NNS に多く用いられていたが、同じ機能をもつ「V なければ（／なくては）ならない（／いけない）」の形式でも十分意見文での利用が可能である[9]。NNS の学習の負担が大きい場合、これらの文型項目は、単に理解表現として留めてもよいかもしれない。

---

[8] 既存の文章表現教材で「用いない方がよい表現」として取り上げられるものは、話し言葉的な要素に限られる傾向があるが、友松（2008）は「客観性のある文章にするための文末表現」（p.78）の中で、「小論文の中ではあまり使われない表現」として「～てたまらない」「～わけにはいかない」などの文型を取り上げており、学習者にも参考になる。

[9] JP データにこれらの形式の使用は 30 例見られた。

4-3　同一の形式で機能が異なる文型

最後に、JPによる同形式の使用が顕著であるものの、文型の機能が異なり、テキストで導入する機能とは別の機能の導入も検討したい「～ということだ」と「～ことはない」を取り上げる。

①「～ということだ」

テキストでの機能は「伝聞」であるが、意見文の論拠に「伝聞」を多用すると、論拠の信ぴょう性が疑われ、説得力に欠けてしまう可能性がある。今回分析対象となった「～ということだ」「～とのことだ」のほかに、中級で導入される「～と言われている」「～という」も伝聞の機能をもつ。初級で導入された「～そうだ」もあわせ、学生は多様な伝聞の文型を学習している。これらの使用例を見てみると、JPは計5例のところ、NNSは計21例と、NNSに特徴的であった。

- NNS015-16　したがって、健康の面を考えると、新聞や雑誌のほうがいいと言われている。
- NNS029-11　資料に基づいて、インターネットが使われてから新聞紙を読む読者とインターネットを使う人ともどんどん増えていくということだ。
- NNS030-13　しかし、インターネットを利用したらさまざまな情報が容易に入手できるし、国のインターネット新聞もあれば、そこについてあわゆる報道を受けられるようになるとのことだ。

一方、JPには、伝聞とは異なる「～ということだ」の機能が28例見られた。その内訳は、文を体言化する機能をもつ用法（JP075, JP089）が16例、それまでの説明を換言してまとめたり、ある状況から導き出される結論を述べたりする用法（JP083, JP101）が12例であった。

- JP075-05　新聞や雑誌の、インターネットと最も大きく異なる点は、新聞や雑誌が紙を媒体と する情報であるということだ。
- JP089-03　しかし、情報の入手におけるインターネット利用の最大の特徴は、自らが主体的に、どの情報を入手するか選択できるということだ。
- JP083-18　つまり、元々既存のメディア批判としての側面を持っていたインターネットが、質の点で更にひどいものになっているやもしれないということである。
- JP101-08　以上のことから言えるのは、インターネットが新聞や雑誌に取ってかわると主張する人達が論拠とする、インターネットの即時性など全く何の意味もないということである。

②「～ことはない」

この文型には「不生起」と「不必要」の機能がある。テキストで取り上げているのは後者のみであるが、JPの使用例は前者が33例、後者が0例である。「不生起」の機能は、すでに初級で学習した「{$V_{た}$／$V_{る}$} ことがある」と中級2課の文型「～ことが多い」に共通する「経験／場合」を意味する「こと」の否定として容易に理解可能だと思われるが、NNSによる産出は見られない。一方、JPの例を見ると、「～ことはない」は、新聞や雑誌が将来的になくなる可能性を否定する見解を述べる際に用いられている。このような「主張」とともに用いられる「～ことはない」は、将来を予測して意見を述べるような文章では利用価値が高い文型である。テキストの本文で「～ことが多い」や「～ことが少ない」という表現がたびたび出現する機会を捉え、「～ことはない」についても言及しておく価値があると思われる。

- JP051-17　従って、当分は新聞や雑誌が不要となることはないだろう。
- JP112-09　このような例からもわかるように、一瞬で紙媒体が消えることはなく、世代の移り変わりによって徐々に斜陽していくと考えられる。
- JP117-15　以上の理由から、インターネットの普及が今後進んでも、やはり新聞や雑誌が完全になくなることはないだろう。
- JP128-17　従って、私はインターネットが発達したとしても、今後新聞や雑誌などの紙メディアが不必要になることはない、と考えている。

5　おわりに

以上、JPの執筆した意見文データをNNSと比較し、『中級日本語』の文型・語句に取り上げられているモダリティ表現の中から、積極的に産出まで指導したい項目と、誤用が生じやすいため注意を要する項目とを挙げた。また、NNSが既習文型を積極的に使おうとして、かえって誤用につながる危険性があることを指摘し、アカデミックな文章表現で使用する際の注意点を考察した。授業では文型指導に力を入れているが、進学後に学生が直面するアカデミックな文章表現で運用可能か否かによって、指導の比重は異なる。指導項目に挙がっている文型のうち、アカデミックな分野では使用しない方がよい文型について明らかにしていくことも、短い期間で大学進学に必要な日本語能力の習得を求められる学生にとっては有効なのではないだろうか。

なお、本分析は、「意見文」という限られたジャンルの分析結果に過ぎない。新聞の投書や朝日新聞の「声」の欄をデータとして「～たいものだ」を分析した金子(2010)等を参考に、今後はレポートや論文における出現の様相も捉えていきたい。

付記

本研究は、平成19年～22年度文部科学省科学研究費若手研究（B）「日本語母語話者と日本語学習者の意見文におけるモダリティ使用」（研究代表者：伊集院郁子、課題番号19720119）の助成を受けている。

引用文献

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

植田瑞子（1998）「『自発』表現の一考察－自発文の二系列－」『日本語教育』96号 pp109-120

金子比呂子（2010）「主張を含む文章の結びの文について－『～たいものだ』を中心に－」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』36号 pp113-122

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著（1994）『初級日本語』凡人社

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著（1994）『中級日本語』凡人社

東京外国語大学留学生日本語教育センター編著（1994）『中級日本語語彙・文型例文集』凡人社

友松悦子（2008）『中級日本語学習者対象　小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法4　第8部モダリティ』くろしお出版

吉川武時編（2003）『形式名詞がこれでわかる』ひつじ書房

資料1

下の文を読んで、自分の意見を800字ぐらいの日本語で書いてください。

今、世界中で、インターネットが自由に使えるようになりました。ある人は「インターネットでニュースを見ることができるから、もう新聞や雑誌はいらない」と言います。一方、「これからも、新聞や雑誌は必要だ」という人もいます。

あなたはどのように思いますか。あなたの意見を書いてください。

資料2

下の文章を読んで、AかB、どちらか一つを選び、反対意見を述べてください。

A　インターネットさえあれば、新聞や雑誌はいらない

B　新聞や雑誌があるから、インターネットはいらない